

# モノレール計画推進に対する 住民意識の高揚策は

小山 典男 議員（織政）

町長 新青梅街道の拡幅再整備後にすべきと考える



武蔵村山市議会と交通環境対策特別委員会との意見交換会

を問う。  
町長 都の新青梅街道の拡幅再整備が、一日も早く実現されるための行動を、優先課題とすべきである。モノレール延伸に関する住民意識の高揚は、拡幅再整備工事が着手された後にすべきと考える。

質問 昨年、新青梅街道沿線の土地所有者と関係者に対して説明会が行われ、今年度中には測量作業を終了する予定との説明があった。このような状況の中、武蔵村山市においては、商工会が中心となり、「モノレールを呼ぼう市民の会」の会員を募集。また、「モノレール延伸の早期実現を」の署名も1万6、894人分集まるなど、市民の意識が高まりつつある。

そこで、町も住民の意識を高めていくべきと考えるが町長の考え

こんな質問もありました  
今後の就農者に対する町の考えは。  
町長 若い農業従事者の交流の場づくりや、農業技術の交流を支援したい。

# グラウンドゴルフ用の土地の確保を

石川 修 議員（新和）

町長 他の公園やグラウンドの利用を調整していく



グラウンドゴルフを楽しむ方々（町営第2グラウンド）

質問 武蔵野地区各町内の高齢者が、平日、町営第2グラウンドでグラウンドゴルフを楽しんでいる。このグラウンドは、国体会場として使

用されるため、24年度から改修工事が始まる。この工事に伴い、現在利用中の方が利用できなくなることから、例えばエコパーク内の元ドッグランの場所や駐車場の一部、北側の林の中など、グラウンドゴルフのための土地を確保すべきと思うが教育長、町長の所見を伺う。

町長 第2グラウンドは24年度に改修工事の予定で、全面的に使用できない期間が発生する。エコパーク内は、樹木の保存、希少植物や生物保護の場としての役割があり、芝生広場は、憩いの場として利用されるため、グラウンドゴルフに開放することは難しい状況にある。グラウンドは、野球やソフトボールで利用される方々もあり、練習の時間帯や大会の開催など、個別の事情もあることから、協議の上、他の公園やグラウンドの利用を調整していく。

# 部長制度の導入効果を問う

高水 永雄 議員（政心）

町長 幅広い施策の統合と、調整ができた



質問 町は、長年課長制度で運営してきた。隣接自治体すべてが市制をしいていることから、住民も市並みのサービスや行政運営の効率化等を求める声が増

えるなか、平成20年4月に部長制度を導入して、住民の利便性や満足度向上を目指した。しかし、多くの住民が効果を実感出来ない現状もあり改善を図る必要があると思われ、町長の所見を伺う。

町長 現在、所期の目標どおり部長制は機能していると考え、事務取扱時間の延長で、部として対応できることから、職員のローテーションが組みやすくなり、安定した業務体制がとれる

ようになつた。また、新郷土資料館の建設、狭山池周辺の整備事業、緑地の保全や遊歩道の連携など、部長を中心に、ひとつの目標に向かい、幅広い施策の統合と、調整を行うことができるようになった。

# 児童・生徒の問題行動の未然防止と 解消に向けた取り組みを

小川 龍美 議員（公明）

教育長 「学校と家庭の連絡推進事業」の申請準備中



先生と一般の方が参加した研修会

質問 児童・生徒のいじめや不登校、暴力行為など、問題行動の早期解決や未然防止には、学校と家庭の連携が非常に重要である。都は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡大と共に、教員と「家庭と子どもの支援員」や「スーパーバイザー」が連携し、児童やその保護者にアプローチする『学校と家庭の連絡推進事業』を開始する。町はこれらの事業を活用し、児童・生徒の健全育成を図るべきと考えるが教育長の所見を伺う。

教育長 23年度では、

に、問題行動は、家庭の支援や関係機関との連携が重要であり、都の新規委託事業である「学校と家庭の連絡推進事業」に取り組むために申請の準備をしている。「家庭と子供の支援員」を配置し、スーパーバイザーから指導を受け、生徒の健全育成に取り組む。



庁議（理事者と部長による会議）

こんな質問もありました  
下水道雨水排水計画を問う。  
町長 住民生活を水害から守るため、引き続き、整備を計画的に進めていく。

こんな質問もありました  
下水道雨水排水計画を問う。  
町長 住民生活を水害から守るため、引き続き、整備を計画的に進めていく。



こんな質問もありました  
町協定保養施設の利用料補助を。  
町長 費用対効果や町の財政状況などから判断し、単独補助は難しい。